

次期市総合計画の策定に当たり、コンセプトの重要性を指摘した八戸学院大の玉樹真一郎学長補佐(左)=16日、三沢市



玉樹さん(八学大)アドバイザーに

次期総合計画 策定へ三沢市

三沢市は16日、次期市総合計画の策定に向け、八戸学院大学長補佐の玉樹真一郎さん(39)を「市まちづくりアドバイザー」に任命。新計画の検討作業に着手した。

総合計画は10年間の市政運営の指針を定めたもので、現行計画の期間は2017年度まで。18年度を初年度とする次期計画については市職員で構成する三つのワーキンググループが本

年度内に骨子をまとめる。

この日、アドバイザーに任命された玉樹さんは、計画策定に携わる職員ら35人を前に講演。民間企業でのゲーム機開発の経験を基に、全ての計画に一貫するコンセプトの重要性を強調。分かりやすさや市民参加の必要性を挙げ、「自身が幸せになるという観点が大切。自分を巻き込めないコンセプトは他人を巻き込めない」と助言した。講演後は計画のコンセプトづくりについて指導した。(桑田友人)